

## IBM Application Security on Cloud

ご利用条件(以下「ToU」といいます。)は、本「IBM ご利用条件 – SaaS 特定オファリング条件」(以下「SaaS 特定オファリング条件」といいます。)、および以下の Web サイトでご覧いただける「IBM ご利用条件 – 一般条件」(以下「一般条件」といいます。)で構成されています(URL:<http://www.ibm.com/software/sla/slabd.nsf/sla/tou-gen-terms/>)。

「SaaS 特定オファリング条件」と「一般条件」の規定に矛盾がある場合、「SaaS 特定オファリング条件」が優先して適用されるものとします。「IBM SaaS」の注文、そのアクセスまたは利用により、お客様は「ToU」に同意したものとみなされます。

「ToU」には、「IBM パスポート・アドバンテージのご契約条件」、「IBM パスポート・アドバンテージ・エクスペンスのご契約条件」、または「IBM SaaS 特定オファリングのご契約条件」のうち該当する契約条件(以下「本契約」といいます。)が適用され、これらと「ToU」を合わせて完全な合意として成立します。

### 1. IBM SaaS

以下の「IBM SaaS」オファリングに、これらの「SaaS 特定オファリング条件」が適用されます。

- IBM Application Security Analyzer
- IBM Application Security Analyzer Per Scan
- IBM Application Security Analyzer Premium

### 2. 課金単位

「IBM SaaS」は、「取引文書」に記載された以下の課金単位のいずれかに従って販売されます。

- 「ジョブ」**は、「IBM SaaS」を取得する際の課金単位です。「ジョブ」は、それ以上分割することのできない、「IBM SaaS」内のオブジェクトで、それにかかわるすべてのサブプロセスを含む計算プロセスを表します。お客様は、お客様の「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中に「IBM SaaS」が処理または管理する「ジョブ」の総数をカバーするのに十分な使用許諾を取得しなければならないものとします。
- 「アプリケーション・インスタンス」**は、「IBM SaaS」を取得する際の課金単位です。「IBM SaaS」に接続された「アプリケーション」の「インスタンス」ごとに、「アプリケーション・インスタンス」の使用許諾が必要となります。「アプリケーション」に複数のコンポーネントが含まれており、各コンポーネントが、異なる目的を果たす、別々のユーザー・ベースである、別々の接続を持っているなどといった場合には、かかる各コンポーネントは、個別の「アプリケーション」とみなされます。さらに、「アプリケーション」のテスト、開発、ステージング、および実稼働の各環境は、それぞれが「アプリケーション」の個別のインスタンスとみなされ、それぞれについて使用許諾を取得しなければならないものとします。1つの環境に含まれる「アプリケーション」の複数の「インスタンス」は、それぞれが「アプリケーション」の個別のインスタンスとみなされ、それぞれについて使用許諾を取得しなければならないものとします。お客様の「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中に「IBM SaaS」に接続された「アプリケーション・インスタンス」の数をカバーするのに十分な使用許諾を取得しなければならないものとします。
- 「インスタンス」**は、「IBM SaaS」を取得する際の課金単位です。「インスタンス」とは、「IBM SaaS」の特定の構成へのアクセスを意味します。お客様の「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中にアクセスおよび利用することが可能な「IBM SaaS」の「インスタンス」ごとに十分な使用許諾を取得しなければならないものとします。

各「インスタンス」の使用許諾については、実行される「ジョブ」または「アプリケーション・インスタンス」(接続される「アプリケーション」)の数量に制限はありません。ただし、同時に30を超える「ジョブ」を実行することはできません。

### 3. 料金および課金

「IBM SaaS」に対する料金は、「取引文書」に記載されます。

#### 3.1 従量課金

「従量課金制」オプションは、お客様がサービスを使用した翌月に「取引文書」に記載された料金で請求されます。

#### 3.2 1か月に満たない期間の料金

「取引文書」に記載された1か月に満たない期間の料金は、按分にて算定される場合があります。

### 4. 期間および更新オプション

「IBM SaaS」の期間は、「PoE」に記述されるとおり、「IBM SaaS」へのお客様のアクセスについて、IBMがお客様に通知した日に開始します。「PoE」には、「IBM SaaS」が自動的に更新されるのか、継続使用ベースで続行されるのか、期間満了時に終了するのかが記載されます。

自動更新の場合には、お客様が期間満了日の少なくとも90日前までに書面により更新しないことを通知する場合を除き、「IBM SaaS」は、「PoE」に定める期間につき自動更新されます。

継続使用の場合は、「IBM SaaS」は、お客様が90日前までに書面により終了を通知するまで、月単位で継続利用することができます。「IBM SaaS」は、かかる90日の期間後の暦月末日まで引き続き利用することができます。

### 5. テクニカル・サポート

「サブスクリプション期間」中、およびIBMが「IBM SaaS」へのアクセスが利用可能になった旨をお客様に通知後、テクニカル・サポートオンライン・フォーラム経由で、お客様が「従量制課金」の料金を負担する期間中は標準サポートとして提供されます。「IBM SaaS」内から、お客様はサポート・チケットを送信したり、支援用チャット・セッションをオープンしたりできます。IBMは、「テクニカル・サポート」の連絡先情報ならびにその他情報およびプロセスを規定するIBM Software as a Service Support Handbookを提供します。

重要度	重要度の定義	目標応答時間	対象応答時間
1	<b>重大な事業影響/サービス・ダウン</b> 事業上の重大な機能が作動不能である、または重要なインターフェースが機能しない状態。これは通常実稼働環境に適用され、サービスにアクセスできないことによって業務に重大な影響が生じることを示します。この状況は、即時に解決する必要があります。	1時間以内	1日24時間週7日
2	<b>著しい事業影響</b> サービス事業機能またはサービスの機能が著しい使用制限を受けているか、または、お客様が事業の最終期限に間に合わない危険にさらされている状態。	2営業時間以内	月曜から金曜の営業時間
3	<b>軽度の事業影響</b> サービスまたは機能を使用することができ、業務に重大な影響がないことを示す。	4営業時間以内	月曜から金曜の営業時間
4	<b>最小の事業影響</b> 問い合わせまたは非技術的な依頼。	1営業日以内	月曜から金曜の営業時間

## 5.1 お客様データへのアクセス

IBM は、当該サービスでの問題を診断する目的でお客様データにアクセスすることができ、当該サービスによりお客様のアプリケーションのスキャンを容易に行うことができます。IBM が当該データにアクセスするのは、IBM 製品もしくは IBM サービスに関する障害の修正、または、これらに対するサポート提供を目的とした場合のみとします。

## 6. 「IBM SaaS」オフリングの追加条件

「セキュリティー・スキャン」では、アプリケーション内のセキュリティー・リスクをすべて特定することはできません。

「IBM SaaS」は、お客様が法規、規制、規格または慣行に基づく遵守義務を満たすために使用される場合があります。「サービス」が提供する指示、推奨使用法またはガイダンスは、法律上、会計上、またはその他の専門的な助言ではないため、お客様はお客様自身で法律上またはその他の専門的な助言を取得するようにしてください。お客様は、お客様とお客様の活動、アプリケーション、およびシステムがあらゆる適用法規、規格、および慣行に準拠していることを保証する責任を単独で負うものとします。

「サービス」の使用は、あらゆる法規、規格または慣行に適合することを保証するものではありません。

「IBM SaaS」は、お客様がスキャンすることを選択した Web サイトおよび Web またはモバイル・アプリケーション上で侵入テストおよび非侵入テストを実施します。こうしたテストの実行は、以下のような特定のリスクを伴いますが、これらに限定されるものとは限りません。

- a. テスト中にアプリケーションを実行するお客様のコンピューター・システムは、停止またはクラッシュする可能性があり、その場合には、一時的にシステムが使用できなくなるか、またはデータの損失が生じます。
- b. お客様のシステムのパフォーマンスおよびスループット、ならびに関連するルーターおよびファイアウォールのパフォーマンスおよびスループットが、テスト中に、一時的に低下する場合があります。
- c. 過剰な量のログ・メッセージが生成され、ログ・ファイル・ディスク領域の過剰な消費につながる場合があります。
- d. 脆弱性を精査した結果として、データが変更または削除される場合があります。
- e. 侵入検知システムによってアラームが起動する場合があります。
- f. テスト中の Web アプリケーションの電子メール機能によって電子メールが起動する場合があります。
- g. 「IBM SaaS」はイベントを探すために監視中のネットワークのトラフィックを妨害する場合があります。

お客様が、テスト中のアプリケーションの認証済みログイン資格情報を「サービス」に入力する場合、お客様は、テスト・アカウントの資格情報のみを入力し、実稼働ユーザーの資格情報を入力してはなりません。実稼働ユーザーの資格情報の使用は、「サービス」による個人データの送信につながる場合があります。

「IBM SaaS」は実稼働中の Web アプリケーションをスキャンできるように構成できます。お客様がスキャン・タイプを「実稼働」に設定した場合、このサービスは上記のリスクを軽減する方法でスキャンを実行するよう設計されます。ただし、状況によっては「IBM SaaS」により、テスト対象の実稼働場所やインフラストラクチャー内でパフォーマンスが低下したり、不安定になる場合があります。IBM は、実稼働場所をスキャンするために「IBM SaaS」を使用することの適合性に関して何等の保証あるいは表明をしません。

「サービス」がお客様の Web サイト、Web アプリケーション、モバイル・アプリケーションまたは技術環境に対して適切であるかどうか、もしくは安全であるかどうかについては、お客様が責任を持って判断します。

「IBM SaaS」は、モバイルおよび Web アプリケーションならびに Web サービスのセキュリティーおよびコンプライアンスに関する潜在的な各種問題を特定できるように設計されています。「クラウド・サービス」は脆弱性およびコンプライアンスに関するすべてのリスクをテストするわけではなく、また、

セキュリティー攻撃に対する障壁の役目も果たしません。セキュリティーの脅威、規制および標準は変化し続けているため、「サービス」はかかる変更のすべてを反映できません。お客様の Web アプリケーション、システムおよび従業員のセキュリティーとコンプライアンス、救済措置については、お客様が一切の責任を負います。「サービス」によって提供される情報を使用するかどうかは、お客様の判断に一任されます。

特定の法律では、コンピューター・システムへの侵入またはアクセスの不正な試みを禁止しています。お客様は、お客様が所有する Web サイトおよびアプリケーション、またはお客様がスキャンする権利および権限を有する Web サイトおよびアプリケーション以外の Web サイトおよびアプリケーションをスキャンするために「サービス」を使用しないことを保証する責任を負います。

## 6.2 Cookie

お客様は、IBM が「IBM SaaS」の通常の運用およびサポートの一環として、トラッキングおよびその他の技術により、「IBM SaaS」の利用に関連してお客様 (お客様の従業員および従契約者) から個人情報を収集することがあることを認識し、これに同意するものとします。IBM によるこのような情報収集は、ユーザー・エクスペリエンスの向上またはお客様との対話の調整を目的とし、「IBM SaaS」の有効性について使用統計および情報を収集するために行うものです。お客様は、IBM、その他の IBM グループ会社およびその従契約者が、営業活動を行う地域において、適用法に従い、IBM、その他の IBM グループ会社およびそれぞれの従契約者の範囲内で、収集した個人情報を以上の目的のために処理することができるよう、お客様が同意を取得すること、または取得済みであることを確認するものとします。IBM は、収集した個人情報へのアクセス、更新、修正または削除について、お客様の従業員および従契約者からの要求に従うものとします。

## 6.3 Derived Benefit Locations

該当する場合、お客様が「IBM SaaS」に関する利益を享受しているとお客様が特定する場所の税金が適用されます。IBM は、お客様が IBM に追加情報を提供する場合を除き、「IBM SaaS」の注文時に主要な Benefit Location として記載した事業所住所に基づいて税金を適用します。お客様は、当該情報を最新状態に保ち、変更があった場合には IBM に通知する責任を負うものとします。

## 別紙 A

### 1. IBM Application Security on Cloud の概要

IBM Application Security on Cloud は、さまざまなアプリケーションについて、セキュリティーの脆弱性 (SQL インジェクション、クロスサイト・スクリプティング、およびデータ漏えい) を特定するための 1 つの場所をお客様に提供します。本サービスには、アプリケーションに対するセキュリティー・スキャンの多様な技法が含まれており、そのそれぞれは、該当するアプリケーションに含まれるセキュリティー問題を特定します。

IBM Application Security on Cloud は、以下の機能を提供します。

- セキュリティーの脆弱性を検出する、「モバイル・アプリケーション」のスキャン。これは、ダイナミック (ブラックボックス) およびインタラクティブ (ガラスボックス) 手法のセキュリティー分析技術によって実行されます。
- セキュリティーの脆弱性を検出する、実稼働もしくは実稼働前の Web サイト、パブリック対応の、またはプライベート・ネットワーク上の Web サイトのスキャン。これは、ダイナミック (ブラックボックス) 手法のセキュリティー分析技術によって実行されます。
- セキュリティーの脆弱性を検出する、Web アプリケーションおよびデスクトップ・アプリケーション内のデータフローのスキャン。これは、スタティック (ホワイトボックス) 手法のセキュリティー分析技術によって実行されます。
- セキュリティーの脆弱性の詳細なレポート。これには、知見の大まかな要約、および開発者が従うことのできる修復ステップの両方が含まれます。
- さまざまな DevOps プラットフォームとの統合。